

from the good Earth

よいちだより「良い地より」

vol. 31
2020.06

3か月に1度、本来なら5月にお届けすべきお便りが、丸々1か月遅れてしまいました。申し訳ございません。しかし丁度ぶどう畑の春仕事に忙しい時期でしたから、手と身体は動かしながらも、日々急激に変わり行く世相について自問自答を繰り返し、頭の中は回転し続けていました。

新しい生活習慣の始まり

現実起きてしまっ、しかも数か月先どころか明日明後日のことさえ誰も正確に予見出来ない事態となりました。この僅か4〜5か月の短時間のうちに、辛いこと悲しいこと寂しいことが一度にどっとやって来たものの、それでも打ちひしがれたままで居るのは止しましょう。私共のこの会報をお読み下さる会員の皆様に限っては、きつとどなたも今後ちょっと前までの「かつての平常」が、何時か又戻って来るとはお考えにならないことでしょう。決して良いことではなかったけれど、今回はこれを与えられた好機と、発想を転換すべきです。以前以上に良き社会を私達は作り出せる、と。第二次世界大戦直後に生まれて、図らずも長生きして今回のパンデミックを経験した60代後半〜70代前半の人々は特に、今回の社会や慣習全体のリフォームに絶好の位置を得ています。周囲の人々に戦後の何も無かった時のことを語りましょう。そしてより良い道の選択を実践して見せましょう。充分過ぎる程の余生を費やすべき良き目標が見付かった今は、積極的に発言しましょう。

ワイン専用のぶどう栽培とその原料からのワイン作り。地球上ではきつと1000人に1人程の割合の人々が従事しているが、我が国では殆んど誰も実践していない、極く珍しい職業を選んだためでしょうか。我が72年の人生の丁度3分の2をこの世界で生きながら、業界に入ったその時からずっと「老いの繰り返す」の如きワイン業界批判を続けて来ました。それが1年半前のワイン法改正、そして今回のコロナ・パンデミックゆえに、すんなり正常化しそうなのです。

中途の論理は端折ります。この自粛期間中、陽光を浴びながら、たっぷりの時間をすべて投入して、我がワイナリーの広大なぶどう畑とガーデンの世話ばかりをしていました。結果とてもきれいな景色となりました。「コロナと共存する新生活様式」の第一条でもあります。「きれいな空気と清潔な環境」は例年以上にきちんと整備されました。庭のバラや花々も見頃です。会員の皆様、是非ゆるりとお出掛け下さい。



そもそもの始まりは、、、

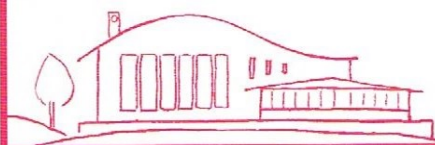
私自身の性格ゆえ、奥ゆかしくニコリ微笑して結局何も言わない、は出来ません。皆さん、特に北海道にお住まいの方々は、2月上旬札幌雪まつり初日のNHK昼のニュースを覚えていらっしゃいますか。NHK札幌局は雪まつり会場のすぐ横にありますから、局のアナウンサー嬢が気軽に現場取材よろしく会場でインタビューしたフィルム（実況？）が流されました。通訳を連れて、「貴女はどちらからいらっしゃいましたか？」。子供を2人連れたオバさん風の人が中国語で、「武漢から来ました。団体旅行は数日前から自粛ですが、個人で来るのは大丈夫です。から。」の10秒15秒程の放映でしたが、内容を再確認すべく、午後7時、午後9時と必ずや同じニュースが出て来るものと観ましたものの、このニュースのこのシーンは誰の差しガネか、その後一切流されませんでした。

そうです。2月上旬札幌の中心部に武漢の人々が居たのです。きつと結構な人数が。今回、例の豪華客船の件を別にすれば、北海道がパンデミック先発区域になったのは、きつと札幌雪まつりが原因です。当局たる道庁や札幌市はその点に関してきちんとしたコメントや追跡調査結果を公表しておりません。そして不思議なことに、地方民主主義の牽引車を標榜する北海道新聞さえも明言を避けます。揚げ句の果てに、来年2月は規模を縮小して開催するですって。何を考えているのでしょうか。誰に気を遣っているのでしょうか。

東京オリンピックだってそうです。まともな頭脳を持った人なら、即刻中止を言うべきです。ここにも「かつての平常」が戻って来ると錯覚している人々が居ます。浄土真宗信仰の私でさえ知っている、IOC会長の御先祖様たるJ. S. Bachの名曲にもあります。「目覚めよ、と（神の）声はのたまう」。それが現在の状況なのです。良く考えてみましょう。札幌雪まつりも東京オリンピックも止めて何の不都合があるのでしょうか。

かつて世界平和を願ってフランスのクーベルタン男爵が近代オリンピック開催を提唱しました。ナチスに政治利用されたりと紆余曲折はありましたものの、戦後長くブランデーという人がIOC会長をつとめ、決してプロフェッショナルを参加させないアマチュア絶対主義を貫きましたものの、その後サマランチ会長がその規制を取り払い、ロスアンゼルス大会ではアメリカにユベロスという商業主義の権化の如き実行委員長が出るに及んで、バカ騒ぎの様相を呈し始めました。勝った人間がガッツポーズをしたり、優勝者が金メダルを齧（かじ）ったりするようにもなりました。オリンピックは参加することに意義があり、勝ち負けはその次の問題のハズです。そして勝者は敗者を労わるべきです。

新潟でワイナリーを営んでいた1990年代、とても面白い知事と知り合い、何度か食事の席を共にしました。いつも知事室で面白い話を考えていて、「駄ジャレ王」の異名をとったこの平山知事の最高傑作は、





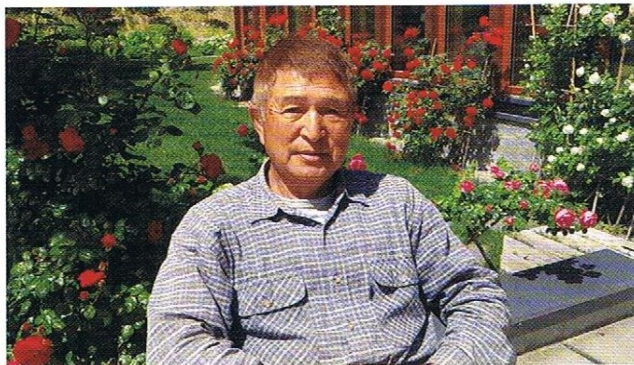
「サマランチの息子の名前知っている?オコサマランチって言うんだよ。」

どちらにしても、もし札幌雪まつりが廃止なり場所移転ともなれば、私の持論であります「大通り本格自然公園化」なり「北大農学部園場の市民公園化」や「植物園の開放公園化」が大きく進みそうで楽しみです。

今後のワイナリー運動は

前号で国内大手のワイナリーは空中分解間近かと述べましたが、では国内に300弱ある中小のワイナリーはどうなるのでしょうか。ワイン法の改正で「新しい純正国産ワイン」ともいうべき「日本ワイン」を製造するには、必然良き原料を自分で作らなければならなくなりました。空前の畑作りブーム到来か、とばかりにぶどうの苗木が高騰・払底（ふつてい）しました。しかし事態は、このブームのさなか苗木製造供給で国内最大の社長さんが、2018年2月1日に札幌で行った講演会の中で危惧した通りとなりました。曰く、「いいですか、苗木の注文を皆さんが沢山私に呉れるのは嬉しいですよ。しかし皆さん良い土地も無いでしょう、栽培技術も無いでしょう。ぶどう栽培という農業を甘く見ちゃいけませんよ。」

現実にもう苗は余り始めましたし、この3年間程一生懸命植え続けた人々が居て、きちんと成長している畑が殆んどありません。この40年余、



日本中色々な所に沢山ワイン用ぶどう畑を作って来た私も申します。ぶどう作りは決して容易ではありません。そして、ワイン作りは確実にきちんとしたぶどう作りの次にしかありません。

要は、ここ数年仕掛けた畑は沢山あるとしても、原料となるべきワイン用ぶどうは殆んど増えていないのです。それに今回のコロナ禍です。皆さんは「歴史や伝統」と「薄汚なさ」を錯覚させて、まともなトイレも用意していないようなワイナリーを、今後人々が訪ねて行くとお思いですか。残念ながら、国内の中小ワイナリーではそのような所が多いのが現状です。飲食店、お土産店、空港等々でのワインの売り上げは激減しています。特に買った人が自分で飲まないお土産用はゼロに近いと聞いています。ワイン業界のアフターコロナでは清潔さと正直さがとても重要と考えます。

これからは、...

すべての業種で言えることですが、お客様を迎え入れるためには新たな生活改革の決意と投資（金銭的にも時間的にも）が必要になります。

私は手仕事や肉体労働に専心して、この4ヵ月間は文章を一切書きませんでした。長旅も控えました。かの偉大なる預言者グレタ・トゥーンベリ嬢は沈黙したままです。ところが彼女が望んだように、僅か数ヵ月の間に空を飛ぶ人々の数は1/1000に減少しました。沈黙考する人々の数はきっと数十倍に増えたことでしょう。今まで利点欠点を考えた末に都会に居続けた人々の、田舎への大きな移動がこの夏から始まるのでしょうか。北海道の、そして我が余市町の人口がいよいよ増加に転じるのでしょうか。

3月より行なっております会員の皆様へのプレゼントワインお引き渡しは、この事情ゆえ今シーズン一杯に延長いたします。どうぞ好きな時においで下さい。

落 希一郎

INFORMATION～イベントのお知らせ～

お申し込み・お問い合わせはOcciGabiWineryまで

ぶどう栽培体験

7月から8月までの間のお好きな日に、会員様のぶどう栽培体験を開催いたします。

予約制

- 朝9時より12時まで作業。※途中休憩あり（12時より昼食をご用意いたします）
- ご参加は会員様とのお連れ様。（中学生以上とさせていただきます）
- 雨天の場合中止となります。中止の場合は前日お電話にてご連絡いたします。
- お電話かメールにてご予約をお願いします。

NILOとマミコ・グレースのコラボ・コンサートを10月に開催!

10月10日(土) 開場18:00/開演18:30

6月28日に予定しておりましたコンサートが10月10日(土)に延期となりました。ドイツ在住の日本人アーティストNILOが津軽三味線のNiya(焼尻島出身)、ジャズピアニストの酒井雅子と協演。我々がマミコ・グレース(実は我が余市町の立派な歯医者さん)が歌います。

このコンサートはオチガビワイナリーの天井の高い大きな空間で、ゆったりとしたディスタンスを取ってと考えております。

予約制

- 料金はお一人様5000円(税込)となります。
- おつまみとオチガビ・ワイナリーのワインも付いてのスペシャル企画です!



お問い合わせ
ご予約



株式会社 OcciGabi 〒046-0012 北海道余市町山田町 635

tel.0135-48-6163 / fax.0135-48-6164

携帯:090-6198-5501

E-mail occigabi@ae.auone-net.jp